

後援会だより

第2号 2005. 1. 15

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

「ごあいさつ」・・・・・・・・・・・・・1	「大学生活と私」・・・・・・・・・・・・・4～5
「新しい教育態勢づくりに積極的なご提案を」・・・・・・2	「保護者の期待」・・・・・・・・・・・・・5～6
法文学部長 山田 誠	「学業面・生活面での相談について」・・・・・・6～7
「研究室から」・・・・・・・・・・・・・2～4	「平成16年度法文学部後援会事業報告」・・・・・・7
○IT社会をリードする　　○感性から学問へ	「予算執行の特色」・・・・・・・・・・・・・8
○心の専門家の育成を目指して　　○職業意識を育む	「法文学部後援会役員名簿」・・・・・・・・・8

ごあいさつ

鹿児島大学法文学部後援会
会長 勝間 正幸

会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

9月下旬に台湾旅行をしました。街中を多くの単車が走っています。それを陸橋の上から見ると、まるで蟻の群が襲ってくるようです。歩道にも多くの単車があり、それが実に整然と並べられています。また実際並べている人がいます。「いい蟻、いい教育が行われていますね」とガイドさんに聞くと「皆がきちんとしないと困るじゃないですか」とさぞ当たり前だといわんばかりの答えが返ってきました。その後、台湾に関する本を読んでいたら、台湾の人の中には日本統治下の戦前の教育を高く評価し、又現在でもそれが随所に生かされている、ということを知って嬉しく思ったり、又教育の怖さを知る思いでもありました。

最近、ここ鹿児島のマナーの悪さを上げると①朝夕の歩行者の携帯メールをしながらの下向き歩行。②交差点での車の赤信号でのつつこみ。③ゴミの出し方違反 etc. この退廃的な世の動きを見て、私は昭和・平成という時代は全盛時代を過ぎたなと思い、



勝間正幸 会長

ある経済専門家にお聞きしたところ「いやいやまだまだ上り坂ですよ」とのこと。それではどういう教育をしたらいいのか不安になる昨今でもあります。

さて、後援会組織も動き出してはや2年が経過しました。大学の先生方の熱心な運営に支えられ、素晴らしい仕事が続々と生み出されています。いい仕事にはものすごいエネルギーが必要です。いい仕事には支える資金が必要です。後援会員の皆様の更なるご支援をお願いいたす所存です。終わりに会員の皆様の更なるご発展をお祈り申し上げてご挨拶いたします。



東屋と掲示板

新しい教育態勢づくりに 積極的なご提案を

鹿児島大学法文学部長 山田 誠

平成16年4月より全国の国立大学がそれぞれ国立大学法人に変身して、まもなく1年が経とうとしています。外部の方々には、新しい制度になって、大学は何がどう変わったのか、を知りたいのではないのでしょうか。法文学部は、この変革を先取りして、大学院教育を格段に整備しています。この間に、臨床心理学独立専攻(修士)、地域政策科学専攻(博士)、司法政策研究科(専門職大学院)を誕生させ、現在も、専門職大学院を引き続き拡充していこうとしています。

ところで、学部の運営が順風満帆かといえば、必ずしもそうではありません。率直に申して、就職率はこの間上向いているものの顕著に回復しているとはいえません。これには、外部の客観的な条件と私たちの取り組みの弱さという2つの要因が重なっていると考えます。前者としては、都市部に比して地域経済に回復力が見られないし、三位一体改革・自治体合併で公務員の採用も大幅に減っています。この客観条件は、地方には大なり小なり共通ですので、問われるのは、私たちがこの壁を突破するだけの努力をしているか、です。

もっとも、教育の達成度は、就職率のような指標だけで表すと一面的でしょう。新制大学になってからの法文学部、さらには旧制第七高等学校までさかのぼれば、法文学部は財界官界学界に、大勢の実力者・著名人を輩出しています。こうした面の評価も大切ですが、さしあたりは、保護者の方々の関心が集まる就職に向けた具体的な取り組みに焦点を合わせましょう。

近年、法文学部は、就職ガイダンス・模擬面接・希望職種などの面談・先輩たちの成功体験報告会など就職関連の取り組みに相当な力を注いできました。それにもかかわらず、目立った改善を勝ち取れないわけですから、入学時点からの教育をもっと経済界や実社会と連携させていくことが必要になるでしょう。教育の一環として実際の仕事に触れさせるインターンシップをもっと充実させるとともに、一方的に講義を受けるタイプのものから、学生たちが積極的に体験し、それ



をより深めてまとめるタイプの教育に組み替えることも重要ではないでしょうか。

この種の新しい教育の実施にはいろいろな点で資金が必要となります。しかるに、国立大学法人への移行は、社会の方々が気付かないうちに、学部運営の資金を大幅に減らしています。運営を預かる私としては、以前よりも著しく少なくなった資金で、先生方にこれまでよりも大きな資金とエネルギーを要する教育をお願いしなければなりません。

しかし、私たちには、他学部にはない学部後援会という強い味方が付いていてくれます。保護者の方々が中心となった後援会に新しい教育の運営態勢を支援していただきながら、実績面でどこにも負けない法文学部の教育研究を目指す覚悟でいます。私どもは後援会の皆様に大学の姿や実情を逐次お知らせして、法文学部の教育研究を理解していただくとともに、後援会の事業については保護者の方々からの独創的な企画やご提案をお待ちしています。

—— 研究室から ——

「IT社会をリードする」……………

経済情報学科では2年生前期より3年生後期まで「演習」、4年生で「特殊研究」という少人数授業(ゼミ)を行っています。1学年最大6名で基本的には「演習」「特殊研究」で指導教員が変わることがありません。指導教員の専門分野について詳しい専門的教育を行う場です。われわれシステム設計研究室のゼミでは「コンピュータやインターネットを社会の中でどのように利用するか」を主眼として活動を行っています。

例えば、ビデオカメラとインターネットとをコンピュータを介して結ぶ事により、鹿児島大学の入学式と卒業式のインターネット中継を行っています。そして、こう



いった技術を用いて「他にどういったことを行えば役に立つのか?」とか「ビジネスとして成り立つのか?」とか「将来的にはどうなっているのか?」を研究してきております。

また、他組織(鹿児島市や企業)との共同研究に

においても、学生に積極的に参加していただき大きな成果をあげています。

このようにシステム設計研究室のゼミでは、実際にさまざまな事を経験することによって技術の習得や、その技術がもつ問題点を実体験する事により問題意識を強く認識することができています。また、最終的な特殊研究の成果は、公開発表会を開催し、広く公表しております。

(下園幸一・経済情報学科)



特殊研究公開発表会

「感性から学問へ」……………

人文学科では前期に1年生を対象とした「人文学基礎」を行っています。私が担当したクラスでは、まず大学での勉強方法についての手ほどき(例えば、演習での発表や文献検索の仕方、レポートの書き方など)をおこないました。その後は、各人の関心に沿って発表をし、それを全員で議論するという演習形式ですすめ、最後にレポートを課しました。

レポートのタイトルをいくつか挙げてみましょう。「夫婦別姓問題」、「銃社会アメリカ」、「フリーター～増加の背景～」、「なぜ鹿児島弁は理解するのが難しいのか」、「ドラえものの魅力」、……。硬いものから軟らかいものまで、学生たちの関心は広範にわたっています。

「ドラえもんなんて!」とお考えの方もいるでしょう。



学生のレポートの表紙

しかし、この発表は学生のあいだでも最も評価が高かったもののひとつです。「ドラえもん」作品の最大の魅力は、誰もが持つ劣等感を代表しつつ、同時に日々正直さを忘れ

ず努力するのび太少年の姿にあると指摘し、さらに進めて「ドラえもんがない世界でわれわれが劣等感を克服するには」という問いを立て、心理学の知見を応用しつつ考察しています。

大学ではもちろん専門的な知識の習得が求められていますが、同時に、日常生活のなかから起こる疑問に向き合い、深く考え、そこから解決の糸口をつかんでいくことがなければ、「使えない学問」になりかねません。学生各自がもっている感性を生かして社会に大きくはばたくために、大学生活のスタートを上手に切ってくれるようお願いしつつ、毎回の授業に臨みました。

(西村明・人文学科)

「心の専門家の育成をめざして」……………

人文学科「人間と文化コース」の母体となった心理学教室は、その源流を旧制七高時代にまで遡ることのできる非常に歴史と伝統のある研究室です。ここで我々は、現代社会の精神病理の解明と解決に貢献できる「心の専門家」の育成をめざし、人間の行動・認知の基礎メカニズムや、社会・文化的環境と人間の相互作用等について教育・研究を行っております。また、実社会で役に立つ「心の専門家」を育成するためには、このような広範な心理学の知識はもちろんのこと、自らの体験に基づいた「経験的な知」が必要です。そこで本コースでは、実験、実習・演習等の実践的授業に特に力を入れております。例えば、近年多くの大学は予算削減や学生に人気がないとの理由から動物実験を行わないところが多いのですが(そうです、心理学には動物実験があるのです)、「基礎的知識は実体験によってはじめて意味をなす」を合い言葉に、九州圏内でただ一つ、コースの全学生にきちんと動物実験まで含めた実験実習を提供しております。

さらに、「教育における貢献を目指した学部学生ボランティア養成教育の試み」として、有志の学生に、コミュニケーションに障害を持つお子さんたちを支える



ボランティア活動の風景(04.11.19)

ボランティア活動に参加してもらっております。ここでは、学生は単に活動に参加するだけでなく、そのたびごとに直面する問題に対して教員から適切な指導を受

け、将来のボランティア活動でリーダー的役割を担えるよう、実践経験に基づく教育を受けています。なお、本年度この事業に関しては後援会からご援助をいただき、後援会の皆様には心から感謝いたしております。

これまで「人間と文化コース」からは、このような実践的な教育を受けた優秀な卒業生が数多く輩出され、教育、医療、福祉、行政等の分野でさまざまな活躍をしておられます。近年、大学を取り巻く環境は必ずしも好ましいものばかりではありませんが、厳しくなる予算・人員・負担にめげることなく、更なる発展を目指して、学生諸君とともにがんばっております。どうかこれからも温かい励ましをいただけますよう、よろしくお願いいたします。

(富原一哉・人文学科)

「職業意識を育む」……………

全国的なデータではありますが、最近の学卒者3人に1人は就職して3年以内に仕事を辞めていると聞きます。社会経験が少ないままに仕事を志望し、入社後に「こんなはずじゃなかった」となるミスマッチが大きな理由のようです。

学生時代に、自らの専攻や希望に関連した職場で仕事を体験する「インターンシップ」については、アメリカでは何と100年も前からあったそうですが、我が国でも最近注目を浴びています。

文部科学省や厚生労働省などもインターンシップを推進することにより、ミスマッチを解消し、高い職業意識と独創力のある人材育成につなげたいとしています。

法政策学科では、平成12年度からインターンシップを学科の選択科目の一つに位置づけており、就職活動を間近に控えた3年生が県内外の官公庁や民間企業、法律事務所、司法書士事務所などで、夏休みに約一週間就業体験をしています。単位として認定されることもあり、学生の関心は高く、この夏も学科の約4割に当たる約50名が参加しました。

かねてはカジュアルな格好の学生たちも、この時ばかりは暑い時期にもかかわらず、ダークスーツを着込んで、2年後？の自分をイメージしながら「社会人もどき」を演じます。就職難のなか、表情は真剣そのものであります。

インターンシップ終了後のレポートを読むと、担当した業務も様々。新聞記事の切り抜き、ポスターの原案作成、会議に出席して結果の取りまとめ、書類の発送作業、ヘルメットをかぶって工事現場の調査に同行、

課外研修？で飲み方に参加などなど。「職場に掛かってきた電話を取るのに冷や汗をかいいた。」これもよい経験でしょう？



インターンシップ

受け入れ先の配慮により、幅広く経験できた様子で、「インターンシップで受け入れてもらった役所・企業を目指そうという気持ちが一層高まった。」とか、「現場で頑張っている社会人の姿に感動した。」などの感想が多いようです。

私が担当する自治体政策論の演習でも、参加した学生たちは授業・教科書から得た「理論」「知識」とインターンシップでの「実務経験」を対比して考えようとする姿勢を実感します。

私の学生時代にはなかった制度で大変うらやましくもありますが、一方就職戦線は、公務員・民間ともに厳しいのが現状であります。まず何よりも景気回復による就職環境の改善が望まれるところです。

(西 啓一郎・法政策学科)



—— 大学生活と私 ——

「集大成としての卒業論文」……………

4年間の大学生活も、気がつけば3年の後期を迎えている。これまでの大学生活では、自分の専門分野をより深く研究し、また同じ専門の学生らと議論を交わすことでさらに理解を深めることができた。学校外でも、アルバイトや長期休暇を利用し海外へ行ったり、さまざまな施設を訪問しその人々と一緒に活動するなど、社会のあらゆる場所であらゆるものを自分の目で見て知ることができた。

これらの活動を通して、現代社会の抱えているさまざまな問題は必ずどこかで結びついており、また一人一人の活動により社会は成り立っているのだということをもっと実感した。しかし、この時期になると、そろそろ具体的な卒業後の進路を決め、それに向けて

本格的に始動せねばならなくなってくる。数ある職業の中で、自分はいったいどの分野で社会に貢献していきたいのか。これまでの大学生活での体験を通して得られたことを生かせる場を見極めたい。また、社会に出て行く前に、自らの学業の集大成として納得のいく卒業論文を書き上げたいと思う。

(人文学科・西洋史系・3年 木ノ下佳代)

「講義内容と社会体験を結ぶ」……………

大学生活は自由と責任に満ちていますが、その面白みは、学んだことを通して実社会の様々な問題を考える瞬間にあると思います。例えば、アルバイトやサークル活動を通じて、複雑な構造を持つ社会の一端に触れることが出来ます。私は飲食店の給仕をすることで、労働について考えるきっかけを得ました。当初の印象は、与えられた仕事に対し「きついな、こんなの機械にやらせればいいのに」というものでした。しかし、「何でも機械に任す」という考えを、労使関係の講義内容を思い出しながら労働者の視点で検討してみると、それは労働量の削減とともに雇用の機会も減らす二面性があることに気づきました。このとき、講義で知った、実社会で労使関係全体を鳥瞰(ちょうかん)する大切さや、労使の調和を図るワークシェアなどの考えを、より深く理解できました。そして、自分の精神的成長を感じたのです。このように大学生活は、私にとってかけがえのない大切な時期なのです。

(経済情報学科・2年 九田高太郎)

「ゼミ合宿で高校生と交流」……………

「奄美経済をより活性化させるにはどうすればよいか？」というテーマで奄美大島でゼミ合宿をした。私は観光産業という視点から考え、事前に調査し、何度も話し合った。そして合宿では、現実の奄美観光を体験するだけでなく大島高校の1,2年生とディベート(討論)をした。目的は、私たちの研究について意見を聞き、資料を読むだけでは知ることのできない情報を得ること、私たちとあまり年齢差のない奄美の若者の生活を知ることだった。また大学や大学生活のことを伝えたいとも思っていた。しかし高校生はこちらの予想以上にしっかりした考えをもっていて、私たちが驚かされるような意見が多く出てきた。大学生になってからこれまで生活してきて、どのようなことを学び、どのくらい成長したのか。考えさせられたのは私の方だった。これらの活動の成果として冊子もつくりました。

(経済情報学科・3年 本田洋志)

—— 保護者の期待 ——

「鹿児島大学に思う」……………

はやる気持ちを抑えながら、パソコンのスイッチを入れインターネットサイト鹿児島大学の入試合格発表の番号を見入る。次男より聞いていた受験番号を順をおって探す。「あった」!間違いがないか再度確認する。「よかった」!!これが親の素直な気持ちである。普通高校に入学し、日夜補習授業や宿泊学習にと明け暮れていた結果である。日頃の努力を見ればあたり前の事かも知れない。しかし、日本全国からの競争の中で自分が希望した大学、学部合格できたのは次男にとって最高の喜びであり、又、一人暮らしをするという不安な気持ちもあり複雑な心境ではなかったかと思う。

発表と同時に住む所を確保しなければならない。知り合いも居ない所であったが、幸いな事に鹿児島県出身の先生を通じて親切丁寧な不動産の方を紹介いただき、長崎より高速道路を4時間かかり鹿児島に出向く、2~3の部屋を下見し無事本人の希望に沿う部屋を決める。去年は、長男、今年は次男とそれぞれの目標に向かって進み出しているが何もないところからの出発で、本人にすれば出費が大変だと無理なこととも言わず辛抱せねばならないと言う気持ちはありがたいと思う。これから先、鹿大の豊かな自然と素晴らしい環境の中で鹿児島県の風土と様々な人間模様を探訪し自分発見と友人を多く作って学業に専念してほしいものである。

今回参加した第2回法文学部後援会では次男が専攻している学部の内容や大学組織の内容を丁寧に報告いただき、安心しました。親というものは案外子供に任せていますと言う言葉が多いが、子供の人格を大事にしながら親も情報を得るという事は大変重要なことと思う。

総会後の懇親会には、多少酒好きな父親が参加し交流を深める。同じテーブルの中に鹿児島県の米山氏・東郷氏と初対面

ながら談笑する。一次会が終了したが、帰るのも何となく寂しく感じ3人で2次会に行き父親同士の宴会とな



る。誠にうまい焼酎を嗜み再会を願い散会する。ところが、うまい焼酎を飲み過ぎ地理に迷わない小生は不覚にも息子の住家の方向が分からず携帯にて助けを願う羽目に陥ったにである。このように同じ大学に籍を置き学んでいる子供の些細なことでも聞いてもらう場は、親も子も同等であり必要なことである。学習する環境作りは、大学も親もその将来を見据えてしっかり考えていかなければならないと思う。2次会で一緒にあった米山氏のことを、息子に話したら鹿児島にきて直ぐ仲良くなった友達の父親でありました。不思議なご縁であります。保護者の皆様、ご多忙とは思いますが年に1回は鹿児島のうまい焼酎を飲みましょう。鹿児島大学法文学部の先生方、学生諸君にありったけのご教授をお願いします。

(長崎県・森重幸)

○今年4月から、長女は法科大学院そして二女は法文学部にお世話になっております。二人とも無事地元の大学に入学してくれてほっとしています。郡元キャンパスはアカデミックな雰囲気の中にも南国らしい明るさがあり、子供たちも大学をとても気に入っています。これからもよろしくお願いいたします。

(大口市・竹下静雄)

○子供が鹿大に入学してから、ずっと思っていた郡元キャンパスへの訪問が、法文学部後援会への出席というかたちで実現しました。大きな楠の木や櫟にかこまれた学内は、ふだん高麗本通りを車で通り過ぎながら眺めたより広くきれいで又歴史を感じさせるものです。土曜にもかかわらず学生たちも多く、課外活動の様子ものぞき見る事ができました。総会では、現在おかれている大学や学部、学生の状況がよくわかりました。又、その後の懇親会では少し緊張感がとれて、先生方や他の父母の方とも話を交える事ができ、又、会



懇親会

食も準備されていて、オドロキです(内心ニッコリ)。大学側の熱意や心配りが感じられ、有意義な鹿大一日体験となりました。

(鹿児島市・東郷龍也)

○その他、「学校側は退学、休学などの学生への対応、またその後の復学など相談できれば」(鹿児島県)という、学生の学業をめぐる心理面でのケアの充実を希望するお便りをいただきました。

学業面・生活面での相談について

法文学部では、毎年、経済的理由や進路変更、学業意欲の喪失、就職、病氣療養などを理由として休学や退学をする学生がいますが、このような学生をサポートする支援策として、学業面及び生活面での指導・相談体制を設けています。

1年次に基礎演習という初歩的な少人数教育の授業を行っており、その担当教員が指導教員(クラス担任)となります。入学直後の学生に、学業・生活面の指導やアドバイスを行うのがその主たる役割です。

2年次からの専門教育においては、演習の担当教員が指導教員となります。また、オフィスアワー(教員が待機する時間)では講義内容など修学上の相談を受けています。さらに、著しい成績不良者に対しては、個別相談・指導を行っています。卒業論文の指導はもとより、生活面の相談、就職活動の支援を中心とした指導やアドバイスも適宜行っており、学生が事件・事故などのトラブルに遭遇した時にサポートする役割も担っています。

また、鹿児島大学には学生のあらゆる悩みや迷いに対する相談窓口として、「学生何でも相談室」があります。相談員(学生生活委員会委員)と学生部職員が対応しますので、ひとりで悩まず相談してください。きっとよい解決策が見つかります。

では休学、復学、退学、除籍について説明します。

【休学】

疾病その他の理由により引き続き3か月以上修学できない場合には、医師の診断書または理由書を添え保証人連署のうえ、学長に願い出てください。法文学部教務係で休学願用紙を受け取り、指導教員に相談し指導を受けた後、休学願を提出してください。

休学期間が長くなると、勉強意欲も低下し、退学する学生も多いので、指導教員はきめ細やかな指導を行っています。修学上のご相談は指導教員または教務委員が対応しますので、お気軽に窓口までご相談ください。

【復学】

休学期間が終了した時は、復学願の手続きを行う必要があります。復学願用紙は休学中の学生の保証人あて教務係から郵送します。

【退学】

退学しようとするときには、その理由を付して、保証人連署のうえ学長に願い出なければなりません、学生の身分を失う重要な学籍異動ですので、保証人と十分に話し合い、指導教員に相談し、慎重に対応する必要があります。

【除籍】

在学期間を超えた者や授業料の納付を怠り督促を受けても納付しない者は除籍になります。

(湊教務係長)

平成 16 年度 法文学部事業報告

(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 12 月 15 日)

1. 学生の就職環境支援に関する事業

○10月～12月

英語教員採用試験対策「特訓！英語」講義支援

○12月

第2回就職ガイダンス模擬面接指導及び講演会支援

○9月～12月 県内企業就職相談教員訪問支援

福岡市企業就職相談教員訪問(5社)支援

2. 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業

○4月 法文学部新入生に対する消費者教育に関する講演会開催支援

○6月 学生教育実習研究における実習校教員授業参観支援

○9月 人文学科学生野外実習及び資料収集支援

○9月 臨床心理学専攻実務実習事後研修会講演支援

○12月 院生学会発表出席旅費支援

3. 学生及び教職員の福利厚生に関する事業

○4月 学生定期健康診断実施協力者支援

○10月 学生レクリエーション用ソフトボール用具一式整備支援

○11月 大学祭法文学部実行委員会サークル支援

○平成 17 年 3 月

平成 16 年度法文学部卒業生・修了生送別祝賀パーティ開催支援(予定)

4. 学部の運営・教育環境の整備に関する事業

○6月 法科大学院設置記念祝賀会及び配布説明資料作成支援

○6月 名瀬サテライト教室開講に伴う名瀬市提供宿泊施設設備支援

○7月 人文系専攻院生室椅子整備支援

○8月 鹿児島大学オープンキャンパス法文学部紹介実施支援

○9月 9月卒業生の卒業式式典支援

○10月 法科大学院3大学(九大、熊大、鹿大)教育連携協議会支援

○11月 経済社会システム専攻院生室設備整備支援

5. その他の事業

○4月 自己評価委員会報告集発行支援

○6月 九州四国法律討論会鹿児島大学開催支援

○6月～10月 県内高校出張授業教員支援

○7月 県立大島高校における公開ゼミナール法文学部学生支援

6. 国際交流事業

○4月～9月

ドイツ・ミュンヘン大学学術交流協定によるミュンヘン大学留学生奨学支援



法科大学院設置記念式典(6月3日)

【 予算執行の特色 】

—— 就職事業に力を入れて ——

平成 16 年度の予算は、①学生の就職環境に関する事業、②学生及び教職員の教育研究活動に関する事業、③学生及び教職員の福利厚生に関する事業、④学部の運営・教育環境の整備に関する事業、⑤その他の本会の目的を達成するために必要な事業、⑥国際交流事業、の 6 つの部門で執行することが総会で決まりましたが、今年度はそのうち、①の学生の就職環境に関する事業に力を入れることになりました。



就職ガイダンス・模擬面接 (04.12.8)

現在、少しずつ景気が回復してきているとはいえ、学生の就職をとりまく社会状況はまだ厳しい状態にあります。企業の新規採用も、昨年に比べて

そんなに増えているとは言えません。そこで、以前から行なっていた就職体験報告会や就職ガイダンス、模擬面接、就職セミナーなどに加え、新たに就職開拓のための企業訪問を行うことにしました。後援会の予算はその際の旅費の援助として使用しています。

また、最近では採用試験の際に英語力が問われることが多くなってきましたが、その対策として法文学部では、英語の特別講座を開催することにしました。今年度からはその援助にも後援会の予算を使用しています。

学生ひとりひとりが自分にあった仕事を見つけるために、後援会予算を有効に使用していきたいと考えています。

(木部常任理事)

【 法文学部後援会について 】

後援会事務局について、少し紹介させていただきます。本会事務局としては特に担当者を配置し、事務事業に携わっている訳ではございません。法文学部事務組織をもって協力致しているところでございます。

事務長のもと、後援会理事会、総会、教授会等を担当する「総務係」、学生、院生等の教務、厚生を担当する「教務係」「学生係」、法科大学院、博士課程・地域政策科学専攻を担当する「大学院係」、さらに、

教育・研究の予算執行する「経理係」「契約係」、学科における学生、教員を支援する学科事務、構内の環境維持管理に務める委託の方々において、支援致しております。

後援会の保護者の皆様方へは、主に事務の方において担当させて戴いておりますが、後援会も 2 年目を迎え、平成 15 年度入学の方、在校生の方にもご加入戴き、さらに、平成 16 年度入学の方と加入者数が増してきており感謝申しあげる次第です。

今後、学部長のもと、学部一丸となって就職活動支援、学生サービスの充実、教育研究の活性等さらに努力して参りますので、ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(田多園文雄)

後援会のホームページ (<http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/> からリンク) でも情報を提供しています (2 月上旬開設予定)。

法文学部役員名簿

会長：勝間正幸 顧問：山田誠

副会長：中瀬正治、小原幸三

常任理事：袈谷清幸、木部暢子

理事：(法政策学科) 中野三重子、前田美和子、袈谷清幸

(経済情報学科) 川元庄司、小原幸三、勝間正幸

(人文学科) 池田勝、加治木優、田島健二

中瀬正治、瀬戸口洋一

(人文社会科学研究所) 福松節生、中瀬正茂

(法科大学院) 西山哲郎

学部理事：(法政策学科) 小山憲明、泉健子

(経済情報学科) 松川太一郎、山本一哉

(人文学科) 石村満宏、細川道久

(法科大学院) 采女博文

監査：豎山美行、渋谷正

監事：田多園文雄

事務局：田多園文雄 (事務長)、清水浩一 (総務係長)

湊 哲郎 (教務係長)、畠広子 (大学院係長)

原田輝久 (学生係長)

樋口利昭 (経理課課長代理)

浦崎和広 (経理課経理係長)

奥寛治 (経理課契約係長)